

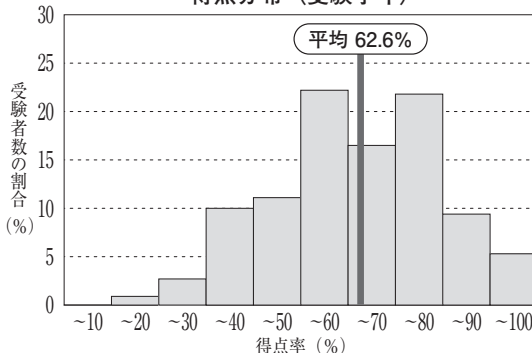
英語 (リスニング)

トレーニングを継続し、対応力を高めよう。

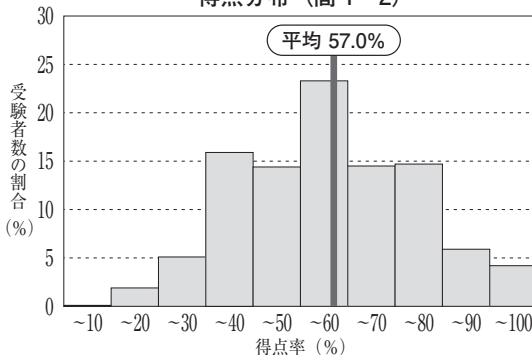
I. 全体講評

今回の受験学年（高3生・高卒生）の平均点は31.3点、得点率にして62.6%という結果だった。高2生が29.3点、高1生が27.1点であり、筆記同様に、これらの数値は現段階での学年別のレベル差を反映したものであろう。総じて見れば平均的な成績と言えるだろうが、今後はさらなる底上げを期待したい。大問別の得点率を見ると、受験学年では、最高が第1問の71.8%、最低が第4問Bの43.6%であった。他の大問はいずれも50%台から60%台でまとまっていた。第4問Bについては、会話本文の長さがハードルになっているが、それだけにここで好成績を取れば大きな差をつけることにもなる。リスニングでの高得点を目指し、耳のトレーニングを怠りなく続けてほしい。

得点分布 (受験学年)



得点分布 (高1・2)



II. 大問別分析

■各学年の平均点、大問ごとの得点率

| 学年 | 平均点 | 第1問 | 第2問 | 第3問A | 第3問B | 第4問A | 第4問B |
|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 高1 | 27.1点 | 60.4% | 57.8% | 40.6% | 57.1% | 61.5% | 37.2% |
| 高2 | 29.3点 | 66.2% | 60.3% | 46.9% | 63.1% | 64.4% | 40.2% |
| 受験学年 | 31.3点 | 71.8% | 62.6% | 54.3% | 68.9% | 66.0% | 43.6% |
| 全員 | 30.1点 | 68.5% | 61.3% | 50.2% | 65.5% | 64.8% | 41.7% |

第1問 対話の聞き取り(数値・語句・イラスト選択)

要注意のイラスト問題と数値問題！

第1問の受験学年の得点率は71.8%とよくできていた。小問別正答率を見ても、60%台から80%台に及んでおり、高いレベルで安定していたことがわかる。比較的正答率が低かった小問はイラスト問題が2つと数値問題が1つだった。イラスト問題のねらいは視覚情報と言語情報を一致させることにあがるが、文としてゆっくり読めばともかく、音声

いて即座に判断するのは容易ではない。また、数値問題では簡単な計算が求められるのが通例である。ここでは計算が必要になることを予め想定しておき、一度目の読み上げで数値をメモしながら、およその対話内容をつかみ、二度目の読み上げで解答(計算結果)を確認するなど、対応のプロセスに自分なりの型を作っておくとよいだろう。過去のセンター試験で類似問題を数多くこなして、自分の型を完成させておくことをすすめる。

第2問 対話の聞き取り (応答文選択)

文脈的な整合性を重視しよう!

今回の第2問の受験学年の得点率は62.6%と平均的だった。小問別の正答率を見ると、最初の2問が30%台に終わり、全体に大きく響いてしまった。他は、いずれも60%台から80%台と好成績であった。最も低調だった問7では、最後のCan you take a look at my computer?の意味がつかみにくかったのかもしれない。このtake a lookは「調子を見る、調べる」に近いが、それは前のやりとりから判断すべきである。この例でもわかるように、第2問に関して強調しておきたいのは、短いながらも文脈をしっかりつかむことの大切さである。話題の中心が何かはもちろん、対話をどのような形で引き継ぐのかに神経を集中しよう。平叙文で終わっているなら、対話の流れ全体から判断して、最も自然な応答を見つけなければならない。これに対し、疑問文で終わっている場合、その内容を正しくキャッチすることによって、少なくとも選択の幅はかなり絞ることができるだろう。

第3問 A 対話の聞き取り (質問に対する答えの選択)

キーワードをしっかりとらえよう!

今回の第3問Aの受験学年の得点率は54.3%で、全体平均よりも低かった。小問別の正答率も40%台から60%台まで1問ずつあった。40%台に終わったのは最後の問16で、対話中の人物の現在地を尋ねたものである。The sand, a shellなどから、最適なのは①On a beachとなるが、②、③、④もそれぞれ一定の割合を占めていた。どこか聞き取りにくい語句があったようだ。第3問Aは短い対話に基づく内容一致問題だが、短い英文だからといって必ずしも容易なわけではない。問16は手がかりとなるキーワードから推測して解答すべき問題であった。設問によっては、別の意味で注意が必要なケースがある。やはり対話全体の流れをつかむことが肝心である。特に、親しい人物同士の対話では、情報を明確に伝える説明的な文とは異なり、多様な感情表現や、ユーモア、誇張、皮肉などの要素が加わることも珍しくない。言葉の裏の意図や心理を読み取るようにしたい。

第3問 B 長めの対話の聞き取り

上手にメモをとり、情報を整理しよう!

第3問Bの受験学年の得点率は68.9%で、第1問に次いでよくできていた。内訳を見ると、50%台後半から80%台半ばで、全体的に安定していた。ハードルの高い大問にしては健闘したと言えるだろう。今後もこの調子を維持してもらいたい。第3問Bは対話形式を用いながら、説明的な情報を正確につかめるかどうかを試している。図やリストの空所を埋めるためには、細部の正確な聞き取りが欠かせない。かなり長い対話文である上に、さまざまなリストの項目や、数量や序数が含まれることもあり得るので、うまくメモを取る工夫をしたいところである。

第4問 A 長めの文章の聞き取り

伝記的文章にも慣れておこう!

今回の第4問Aの受験学年の得点率は66.0%とかなりよくできていた。しかし、小問別の正答率を見ると、問21が30%台で、大きく足を引っ張ったことがわかる。長い本文の内容を凝縮して言い換えたのが、内容一致問題における正答の選択肢であるから、この難しさはここだけの課題ではない。今年の第4問Aの出題形式が今後も続くとなると、今年のような伝記的文章やストーリー性のある文章を聞き慣れていることが重要になるだろう。また、本文の長さ按比例して、場合によっては選択肢も長くなる可能性がある。こうした点を考慮すると、聞いて理解することは勿論、素早く読んで理解する能力も必要になってくる。こうした課題に対処するためにも、日々の英語学習に音声教材を利用するだけでなく、積極的に音読も取り入れ、オールラウンドな力を伸ばしてもらいたい。

第4問 B 長めの会話の聞き取り

ハードルは高いが、最後まで集中しよう!

今回の第4問Bの受験学年の得点率は43.6%で、全大問中で最も低かった。小問別の正答率を見ると、問23が20%台、また問25も40%台にとどまり、これらが全体の得点率に大きく影響した。間違えた箇所については、読み上げ文を見直して確認してほしい。リスニング問題は筆記問題とは比較にならないほど高い集中力を要する。その最後に待っているのが、長い会話文を素材とする内容一致問題

のこの第4問Bである。毎回多くの人が苦戦する大問であるが、これに対処するには日々のトレーニングで集中力を持続させる鍛錬をするほかはない。少しずつでよいから徐々に長い英文を集中して聞き取る訓練をしていこう。

Ⅲ. 学習アドバイス

◆受験生及び既に受験勉強に励んでいる人へ
センター試験までの2か月余りを使って、1問でも多く正解を得られるように対策を行おう。特に、まだリスニングに苦手意識がある人は、以下を参考に復習に努めてもらいたい。

まず、解答解説書の「読み上げ文」を読んで、内容をすべて理解できるかどうか確認しよう。わからない語句や表現は解説・辞書・参考書を利用して確実に理解すること。

理解が完全になった段階で、模試の復習ツールのリスニング音声で、読み上げ文を「音」として確認してみる。初めは読み上げ文のスク립トを見ながら、次にスク립トを見ずに音だけでどのくらい内容を理解できるか聞いてみよう。そして、リスニングの音声を真似て何度もスク립トを音読してみる。数日間集中して行い、同じ速度でつかえずに音読できるまで何度も繰り返すこと。この音読学習を行ったあとで英語を聞くと、以前よりはるかに英語の音を聞き取れることが実感できる筈だ。短期集中のできる効果的な学習法なのでぜひ実行してほしい。

◆これから本格的な受験勉強に取り組む人へ
今回初めてセンター試験形式の問題を解いた人は、センター試験で出題されるリスニング問題のイメージがつかめただろう。約30分間集中して英語を聞くことの大変さを味わった人もいるかもしれない。リスニングといっても、まずは内容を理解するために必要な語彙力・文法力などの基礎力を固めることが先決なので、あせらず基礎固めを行うこと。また、英語を語順通りに理解する必要があるリスニングの学習は、知らず知らずのうちに英語力全般の向上にもつながるので、基礎固めを終えた人は積極的にリスニング学習を行おう。そのために大切なことは、日頃から英語の「音」を意識して学習すること。とくに、英語の音は聞くだけでなく、積極的に

その音を真似て自分で発音してみることが必要である。文法や語彙の学習時にもしっかり声に出して読んでみることをすすめたい。毎日少しでも英語を耳にする環境を作り、また自分で音読することを習慣にしたいうえで、リスニングの問題演習に取り組もう。